

令和3年—4年度期 第6回 世田谷区子ども・青少年協議会 会議録

■開催日時

令和5年3月29日（水）14時30分～16時30分

■開催場所

区議会大会議室

■出席委員

入澤充 志村健一 阿久津皇 高橋昭彦 中山みずほ 田中優子 林大介 森岡美佳
明石眞弓 岡崎美恵子 藤原由佳 勢能克彦 平田和英 渡邊明宣
廣岡武明 下村一 奥村啓 新井佑 近藤三知香 増田名那 丹羽有彩 中谷友美

■事務局

子ども・若者部長 柳澤純 児童相談所長 土橋俊彦
生涯学習部長 内田潤一 子ども・若者支援課長 嶋津武則
児童課長 須田健志 子ども家庭課長 小松大泰
児童相談支援課長 木田良徳 生涯学習・地域学校連携課長 加野美帆

■会議公開の可否

公開

■傍聴人

0人

■会議次第

1 開 会

2 議事

報告書「若者とともに変わる地域～若者の視点で」

3 その他

4 閉 会

午後2時30分開会

○嶋津子ども・若者支援課長 定刻になりましたので、令和3年－4年度期第6回世田谷区子ども・青少年協議会を開会いたします。

本日は、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます子ども・若者支援課長の嶋津と申します。どうぞよろしく申し上げます。

まず、本日の会議を進めるに当たりまして、会議録を作成しております。正確を期するために速記者を出席させていただいております。あらかじめ御了承願いたいと思います。本日の会議の御発言の際は、事務局よりマイクをお渡しします。お声がけいただければと思います。

また、本日の協議会の出欠の状況でございますが、事前に、白井委員、田谷委員、栄委員から欠席の御連絡をいただいております。本日の会議は、2分の1以上の委員の方の御出席をいただいておりますので、成立となります。開発委員と中谷委員は遅れて参加にされると思っております。

また、本日は、保坂区長にも御出席いただいております。よろしく申し上げます。

次に、お手元の配付資料を確認させていただきます。次第と、令和3年－4年度期世田谷区子ども・青少年協議会報告書となります。このほかに、机上に「C h e e r ! ～わかものライフガイド～」、青少年交流センター広報紙の3種類、アップスPRESS、のげ青通信、いけせいT I M E S を配付させていただいております。後で御説明があるかと思いますが、警視庁からのチラシが1枚ついております。

資料は以上でございますが、不足等はありませんでしょうか。

では、本日の流れを先に御説明させていただきます。今回、席上に配付してございます報告書につきましては、12月に開催しました第5回協議会でお示ししました報告書素案から、委員の皆様からの御意見等を反映した形で、小委員会の議論を経て完成したものとなります。本日は、まずは副会長と委員から報告書について御説明をさせていただきます。その後、会長から保坂区長へ報告書をお渡しいただきます。区長は、公務の都合によりまして、報告書をお受け取りいただき、御挨拶いただいた後に退席の予定でございます。その後、モデル事業の報告、今期の取組に対する皆様からの御意見などをいただきます。本日はこのような流れで進行させていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。

では、まず、小委員会から報告書について説明していただきます。今期、小委員会の委員長を御担当いただきました副会長と、副委員長のお2人から御説明をいただきます。

それでは、まず委員長、次に副委員長の順番で説明をよろしく申し上げます。

○副会長 報告書に基づきまして簡単に御報告をさせていただきたいと思えます。

まず、報告書の2ページを御覧ください。2ページから3ページにかけて背景というものが書かれております。ここはもう既に皆さん御存じだと思いますけれども、今年の1月時点で世田谷区の人口は91万人を超えている、非常に大きな自治体となっております、それ以上に着目すべきは若者が多いということです。その次の段落になりますが、10代、20代、30代を合わせると34%を超えているということで、若い人材が非常に多い自治体でございます。同じ23区の中でも、私は北区というところに住んでおりますが、高齢化で有名な自治体でございますので、そこからすると非常にうらやましい人口構成になっているんだろうと思います。しかしながら、この人口の推移を見ますと30代が減少しているということになっておりまして、30代の減少は子育ての世代にも当たるかと思えますので、今後のことが少し心配になってくるような動きがあるのかと思われそうですが、それでも、世田谷区在住ではなかったとしても、区内の学校に通ったりとか、世田谷区に勤める若者も多く、また、若者を引きつける町があったりという非常に魅力的な自治体であることは間違いないと思えます。

こういった背景の中で、ちょうど暑い最中でしたけれども、令和3年8月4日、区長より、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というお題をいただきまして、調査、審議がスタートすることになりました。

検討体制を御覧いただきたいと思えますが、世田谷区子ども・青少年協議会条例に定める協議会委員18名のほか、専門委員10名を加えた28名で検討を行ってまいりました。専門委員のうち4名は大学生になっておりまして、若者の立場から発言していただく、これが私たちにとっては非常に大きな意味を持つものとなりましたけれども、若者がこの委員の中にいらっしゃったということは、とてもありがたいことでした。そして、そのことがあったからこそ、若者の視点で若者とともに変わる地域のことについて検討ができたのかなと思っているところです。さらに、この28名の中で、より集中的に審議を行うために小委員会を立ち上げていただきまして、小委員会の委員長として活動に参加をさせていただくことができたことをお礼を申し上げたいと思えます。

検討の概要を御覧ください。まさにこのテーマについて検討をしてきたわけですから

も、これまでの蓄積がありますので、そういったことを踏まえつつの検討ということになったわけです。これは先人の方々の肩の上に乗っかるということになるかと思えますけれども、より遠くを見るための取組が行われまして、今期どのようなことをやるのか、そのあたりのことの話合いが始まったわけですが、そもそも若者って誰なんだろう、地域ってどこなんだろう、こういった確認から始まったことを記憶しております。そして、今後、この時期の中で何ができるんだろうかということを考える中で、学校と商店街の2つを検討の場として取り上げまして、そこでのモデル事業を通じて区に対する提言を考えていくような取組が始まりました。

残念ながら、この期におきましても新型コロナウイルスが猛威を振るっておりまして、その影響はやはり計り知れないものでございました。活動が制限されてしまったり、実際の小委員会もオンラインで開催をするというような時期があったわけですが、それでも何かできることをということで探し続けまして、その結果がこのモデル事業の詳細についてということで、非常にページ数が多くなっていますけれども、第2章、モデル事業の実施・検証のところでもまとめられております。

このモデル事業のそれぞれの活動につきましては、後ほどチームごとに御報告をいただくことになっておりまして、非常に限られた時間、そして、制限されている時期ではありましたが、魅力的な活動が展開されましたので、その御報告を後ほどいただきたいと思えます。

また、その実施内容を踏まえた今期の検討概要を踏まえた提言については、副委員長より説明をさせていただくことになっておりますので、副委員長にマイクをお渡ししたいと思います。

○委員 では、引き続きまして、提言内容についての説明をさせていただきたいと思えます。

報告書の55ページから提言ですので、めくっていただいて56ページからになります。今期の提言に対する考え方として、今、委員長からもありましたように、2つのモデル事業を基にした提言を行っておりますが、前年度期の令和元年－2年度期のテーマが「若者の力が活きる地域～意見表明・参加・参画を中心に」というもので行っておりまして、それに基づいた提言を令和3年3月に提出しております。

今回いただいているテーマに対してというところの中で、いろいろと議論してきているんですけれども、今期の区への提言についての議論を重ねる中で、新たな提言を打ち出す

ことよりも、今ある前年度期の提言を引継ぎつつ、より実情に即した取組となるように検証していく必要があるという結論に至って、今回、提言をまとめさせていただいております。提言については、次ページ以降まとめていますけれども、前年度期の提言の説明の抜粋と、それに対して世田谷区が充実させた取組、また、子ども・青少年協議会が取り組んだ内容と検証結果、最後に、その次のステップとして、さらに充実させるために必要なことというものをまとめさせていただいております。

今これらを全て詳細に説明するのは時間がありませんので、見ていただきながらというところではあるんですけども、57ページ、提言1「多様な若者に、多様な居場所を」については、いろいろと取組を行ってきたはいるんですけども、次のステップとしての部分を読ませていただきますが、様々な場があることを知ってもらうこと、若者のニーズにあった場を用意することということです。

めくっていただいて、提言2「現場へ出向き、若者の声を聴こう！」という取組に対しては、やはり若者との信頼関係を築くこと、声を拾った後に誠実な対応を行うこと。

提言3「参加したくなる、カルチャーを」に対しては、①若者参加を求める際には、若者とともに企画し参加を呼びかけること、②帰属意識が芽生え、参加のインセンティブとなるように、コミュニティの中で若者に役割を担ってもらうこと。

めくっていただいて、60ページです。提言4「多様に参加・協働できる制度を」に対しては、次のステップとしまして、①一人ひとりが役割を持つことができるミニマムなコミュニティを設定すること、②誰もが参加しやすいオープンな場、アクセスできる場、いつでも出入り可能な場、楽しい雰囲気がある場になるよう工夫すること。

提言5「たくさんの多様な大人と会おう！」については、次のステップとして、①人が出会える場を有効に活用すること、②今、繋がりのある連携先とのかかわりを継続していくこと、③新たな団体や人との関係を広げていくこと。

めくっていただいて、62ページ、提言6「持続的発展のできる組織づくりを」については、次のステップとして、①今、繋がりのある連携先とのかかわりを継続していくこと、②新たな団体や人との関係を広げていくこと、③若者のニーズにあった具体的な「場」の確保、主体となる組織・チームの組成、必要資金の確保を推進すること。

提言7「若者にも伝わる広報・PR」をは、次のステップとして、①“伝える”広報から“伝わる”広報への転換をおこなうこと。

めくっていただいて、64ページ、提言8「庁内連携や官民連携をスムーズに構築でき

る体制を」に対して、次のステップとしましては、①様々な取り組みがあることを知ってもらうこと、②今、繋がりのある連携先とのかかわりを強化すること、③新たな企業や団体、人との関係を広げていくことというように、それぞれ前年度期の提言1から8に対して、この間行ってきました区及び子ども・青少年協議会で取り組んだ内容と実証を踏まえた上で、さらに充実させるために必要なこととしてまとめております。今、読み上げました前期提言に対する次のステップ一覧につきましては、65ページにまとめておりますので、そちらも御覧いただければと思います。

その上で、66ページです。次に、前期提言に対する次のステップというものをそれぞれ提言1から8に対してまとめてきているところでありますけれども、この間取り組んできた結果として、提言のまとめとして、以下のことを提言させていただきたいと思えます。

これまでも、区は若者支援における様々な取組を行ってきたことが分かった。しかし、多くの人に、これらの取組は知られていない。

区報やウェブサイト、SNSでお知らせしていても、多くの若者には伝わっていない現状がある。一人でも多くの若者に伝えていくためには、発信者本位の広報から、相手に伝わる広報を心がけていくことが必要である。また、若者の地域参加、参画を進めるためには、変化する若者のニーズを把握することが有効である。大人が伝えたい文化や情報を提供していくことも大切ではあるが、若者のニーズに合う新たな取り組みにもチャレンジして欲しい。ニーズを把握するために、若者の流行をキャッチできるようアンテナを張ることに加え、多くの若者の声を拾うこと、若者と接することの多い企業や団体、学校などから積極的に情報を得る努力をするべきである。若者が楽しみながら力を発揮し、地域活動を盛り上げていくためには、大人のサポートが重要である。若者と大人が良好な関係を継続していくためには、信頼関係を築くことが求められる。誰にでも言えることではあるが、人は信頼できる人と関わっていきたくて願っており、若者も同様であると考えられる。子ども・青少年協議会では、若者の意見を尊重することと、先回りして意見やアドバイスをすることは控えるコミュニケーションを心がけた。その結果、対等な関係を築くことができ、活動を継続することができた。

そして、若者にとって「場」と「役割」が必要であるという結論に至った。場とは、学校や家庭、第三の居場所という物理的な空間のほかに、信頼できる人や気が合う人と出会い、人間関係を育む場、一人になれるまたは、趣味の活動ができる時間など、時と場合に

よって求める「場」は異なる、また、その「場」に集う若者がそれぞれに役割を持つことで、参加・参画の意欲向上につながる。

最後に、上記に記載の「伝わる広報」「ニーズの把握」「若者との関係性の構築」「場の確保」をより効果的に実現するためには、区役所だけで進めるのではなく、地域の団体、学校、商店街、企業など、様々な人が関わりを持ちながら進めていく「協働する取り組み」が有効であると考えます。

また、我々も、本提言の「次のステップ」の実現状況を定期的にモニターしていくことで、世田谷区の若者施策の推進を後押ししていく。

以上になります。

○嶋津子ども・若者支援課長 ありがとうございます。

それでは次に、会長から区長へこちらの報告書をお渡ししたいと思っております。恐れ入りますが、保坂区長、会長、御起立をお願いいたします。

○会長 よろしく願いいたします。報告書の内容は、今、お2人の先生方から出されたとおりであります。この報告書の中に若者の意見がたくさん入っております。この提言をぜひ区政に活かしていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。お受け取りください。（拍手）

○嶋津子ども・若者支援課長 ありがとうございます。それでは、こちらで保坂区長より御挨拶を申し上げます。保坂区長、よろしくお願い致します。

○区長 区長の保坂でございます。2年間にわたりまして、子ども・青少年協議会における熱心な御議論、また、御検証を誠にありがとうございます。私が2年前に「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というテーマで諮問させていただき、先ほど会長から分厚い報告書を御提出いただきました。豊富な実証事例、また、たくさんの写真も入っているということで、じっくり読ませていただきたいと思います。また、報告書作成に当たりまして、協議会小委員会の委員長、副委員長から、協議会の議論のほか、小委員会で具体的なモデル事業を実施し、若者の居場所の必要性や活躍の場などについて、小委員会の委員が中心になって検証をしてきましたという御説明をいただきました。地域の活動をはじめ、様々御努力いただいたことに深く感謝いたします。

世田谷区は、若者の交流と活動の推進、若者の社会的自立の促進、生きづらさを抱えた若者の支援を進めるべく、若者支援の専管組織を平成25年に立ち上げてからはや10年の期間が経過をしております。この間、若者が集える場や交流の機会、ひきこもりの当事者

支援など、様々な施策に取り組んでまいりました。これらの取組の中には、子ども・青少年協議会の皆様からの御提言を参考にさせていただいた事業が数多くございます。時代の流れとともに、若者の関心、興味、価値観、活動の領域など変化しておりますが、ここ数年は、新型コロナの影響で大変大きな環境の変化がございました。日頃から若者の声に耳を傾け、関わりを持っていただいている委員の皆様から、若者の実情に即した具体的な提言としていただくことができたことと受け止めております。

本協議会は、大学生が若者の委員という形で参加をしてくれました。様々な取組から感じた課題や考えなどを、当事者、若者の視点から御意見を頂戴したと聞いており、この4月に施行されるこども基本法の趣旨からも大変意義のあることと感じております。協議会からの貴重な意見をしっかり受け止め、若者にとって希望が持てる世田谷区となるよう若者支援施策を進めていきますので、引き続き皆さんから、厚い御協力、また御提言、御指摘をいただけると幸いです。

最後に、このたびの御協力に改めて感謝をいたしますとともに、協議会の皆様のますますの御健勝をお祈り申し上げて、区長からの挨拶といたします。長いこと大変ありがとうございました。

○嶋津子ども・若者支援課長 保坂区長、ありがとうございました。ここで保坂区長は公務の都合で退席させていただきます。ありがとうございました。

それでは、これからの進行につきましては会長にお願いいたします。

○会長 それでは、進行していきたいと思えます。小委員会のモデル事業について、代表の委員の方にそれぞれ補足や経過説明などをお伺いしたいと思います。

それでは、まず学校チームからお願いいたします。

○委員 今回、アップスの広報紙の裏側に、中学校、高校に行ったものが少し写真も載っていますので、そちらも御覧になりながらお聞きください。

大東学園に4回ほど校内カフェという形で訪問させていただきました。若者の様子としては、見ず知らずというか、知らない大人が来ていますけれども、非常に温かく迎えてくれて、非常に楽しい雰囲気の中で、いろんなことを語ってくれるような場面がありました。毎回40人程度の高校生が来てくれました。中には、例えばゲームなんかがあって、このゲームは私が持ってきてほしいというからここに今あるんだというのをほかの子に自慢するような子もいたりして、少しずつ当事者として、自分が意見を言ってというような、自分の場というふうに少し認識してくれたのではないかなと思っています。それか

ら、学校の先生からは、学校で見ることのない新しい姿を見ることができたというところ
と、様々な福祉的な課題を持っているお子さんもいらっしゃるので、今後、続けていく場
合には、その辺の学校側の持っている情報と、カフェだからこそ出てくる情報みたいなも
のが出てきますので、その辺をきちっと情報交換できるようなシステムをつくってけれ
ばいいですねということをおっしゃっていただきました。

あと、学校チームとしては、今回4回しかやっていませんので、ぜひ来年度も1年間継
続して何か事業ができたということをお委員の皆さんとは確認をさせていただきました。
それから、学校側にも一応御相談に行ったところ、学校のほうはぜひやってほしいとい
うことで、令和5年度についても月1回程度実施できたらどうだという話で今少し話が進
んでおります。

現在の校内カフェの従事体制ですけれども、我々の任期が5月までという形なので、4
月、5月については現在のメンバーで担当したいと思っていますけれども、6月以降は、
次の期の委員の方たちに、確認をさせていただきながらぜひ継続して実施ができたらい
いなど考えております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、学校チームの校内カフェに御参加いただいた委員より、お願いいたします。

○委員 私も何回か校内カフェに行かせてもらって、モデル事業からこれから本当に事業
になっていくんだなと、本当に大事な時期に関わらせてもらえたと思っています。実際
行くと、高校生から結構年がいった方まで一つの空間の中において、私自身は中学生のとき
にいろんな人と校内で関わっていないなと思っていた時期もあって、少し悩んでいた時期
もあったので、いろんな人と関われるような空間が今はあるというのは、世田谷区の高校
生にはすごく幸せなことで、理想的な空間だなと思っています。

現場に行くと高校生とはまだ少し距離間を感じるようなときもあって、アップスでいつ
も私がインターンしているときに話している小学生とは、やっぱり高校生という時期もあ
って、距離を縮めていくのが難しいなと感じるときもあります。私は中高がどちらも世田
谷区ではないのであまり分からないんですけど、それぞれ高校ごとに校風とか色とか
も結構違うのかなと思うので、学年だけではなくて、学校だけの特色もこれから見てい
く必要があるかと思いました。そういう意味では、同じものをただ広げていけばいいだけ
ではないというところで、今後は難しさが出てくるのかと思います。

あと、今後は多分、継続するために事業者の方を選定していったり、時間帯の試行錯誤をしていったりする必要があるかと思うんですけども、その中でも他事業との連携も結構重要だと思っています。例えば、しもきた倶楽部でいろいろやってくれている大学生だったり、新社会人もたくさんいると思うので、そういう人と連携していったりということも今後は出てくるかと思いました。

以上です。

○会長 ただいまの委員からの報告でも見受けることができるんですが、新たな課題を見つけたということと、学校側も月1回程度来ていただきたいというようなことから、学校側自身も課題を見つけたのではないかと思います。学校側と良好な関係が築けた、これからも築かなければいけないということがこの報告から出てきたと思います。ありがとうございました。

次に、商店街チームです。お願いいたします。

○委員 商店街チームは、前期から引き続きで、しもきた倶楽部というクラブを中心に、下北沢を中心に活動してきました。報告書には、3回のイベント、4年の3月に下北のまち歩き、そして7月にはみんなのロコミマップ、それから12月には地域の中の場づくりということで、「Hub culture」というイベントを開催しました。詳細については報告書に載っておりますので、後で御覧ください。

補足といたしまして、年度末ぎりぎりの3月18日にシモキタオープンイノベーションでイベントを開催しました。このイベントは、下北の衣装家さんの課題を解決するにはとあった内容だったのですが、若者が大人と一緒にグループ討議をする中で、地域課題を抱えた人や団体に対して、若者の視点を通して丁寧にヒアリングし、若者の持っている独創性やアイデア、これは柔軟で独創的な発想ということなんですけれども、そういったものを活用し、課題を感じている当事者の課題を整理していくことで、課題に対する新たな発見や解決の糸口を見つけられるのではないかという気づきが若者の中にもありました。そして、自ら現場の人とつながり、役割や責任を持ち、様々な体験をしていくことで若者自身がさらに力をつけていくことができるのではないかと感じています。また、今後のしもきた倶楽部の方向性として、課題解決に向けて、若者と団体、地域の人をつなげる、そういったマッチングのプラットフォームをつくれるのではないかという新たな発想もありました。次の段階としては、行政の力などをうまく引き出しながら自立的に活動していくことを見据えて活動していくことも重要であると考えたいことは、委員の中でも話し合

われています。

今後のしもきた倶楽部の活動については、商店街チームと確認したのですが、倶楽部の活動は令和5年も実施していきたいという意向を確認いたしました。

今後のしもきた倶楽部の従事体制は、現委員の任期は5月までなので、その間は現委員で実施しますが、6月以降は新委員に引き継ぐことといたします。ただし、現委員も地域の大人として関わっていくことのできる方もいらっしゃいますので、状況を見ながらみんな協力していく予定です。また、来年度は、令和6年以降の実施方法についても今後検討していく予定となっております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。同じく商店街チームから、お願いいたします。

○委員 先日のイベントでは、イベントの企画とか準備からイベントに実際に参加するところまで全部やらせていただいたんですけども、その中で、どういう準備が必要かとか、そのお題、イベントで出された議題から発展して、これからしもきた倶楽部でやりたいことの方向性とかも見えてきたので、すごくよかったなど。特に若者と大人の方たちの世代交流ができて、私はすごく面白かったなど思っていて、大学生同士でも違う意見がたくさん出てすごく勉強になりましたし、大人の方たちはいろいろな経験をされてきて、それを何か基にしたアイデアとかもたくさん聞いたので、すごく勉強になったなど感じました。

実際にイベントを運営していく中で役割分担がうまくできていなくて、責任が1人の方に重くかかってしまっていたなどか、これからこの活動を続けていくとなると人を増やしていかないといけないなどか、今までぼんやりしていた課題とか、解決しなければいけないことも明確になったのではないかと思います。

今、私が実際に大学に通っていると思うのは、今の若者は、大学とか家以外とのつながりがすごく少ないと思うので、そういうつながりをあまり持っていない人たちが興味を持って入っていけるような場所にしもきた倶楽部がなれば良いと感じました。

○会長 委員の報告から、参加者の意見を認め合うという雰囲気が出てきた、それによって若者が存在感を感じる大切さを感じたのではないかと、そういうことに気づけたのではないかとこのことを読み取ることができたと思います。どうもありがとうございました。

では、今回は最終回の協議会となりますので、ここからの時間は委員の皆さん全員から

御感想を伺ってまいりたいと思います。よろしく願いいたします。それでは、区民委員の方々からお願いしたいと思います。

○委員 私は学校チームに関わらせていただいて、前期よりも関わらせていただきました。今期は学校カフェが開催できて本当によかったなど。委員の方にも、やってみたらと言われたあの一言というのはすごく大きくて、やってみたところ、いろんな課題も出てきたし、いいこともあったかなと思っております。

参加した子どもたちのアンケートの中に、居心地がいいというのに2名ほど手を挙げていたんですけれども、居心地がいいと思ってくれている子たちがいるということはとても救いかなと。だから、こういう場所で居心地がいい場所というのが区内のところでいっぱい増えていったらいいなと思っております。

先日、学校ごとの関係者評価アンケートの中で、今年は学校の中でほっとする場所があるかというアンケートがあったんですけれども、大体みんなほっとできると言っているのは1割ほど、近くのアンケートしか見ていないんですけれども、ほっとする場所がないと言っているお子さんがいるというところで、やっぱり学校の中でほっとする場所を教室以外のところにつくっていかないといけないのかなと。全国的にも不登校の子がいて、だんだんコミュニティーから離れていってしまう現状がある中で、やっぱりほっとできる場所というのを学校の中でもいいし、地域でもつくっていかないといけないのかと今回の活動を通して思いました。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私はこの2年間、とにかく楽しかったなということです。やっぱり義務感で委員をしているというよりは、若い人たちとこの委員の仲間と一緒に、しもきた倶楽部を中心に何となく輪ができて、それ以外の子とも結構仲よくなったので、こういう人との顔の見える関係というのはすごく大事だなと、コロナの中で特にそういうふうに感じました。

課題がちょっとあるなと思うのは、この活動をどのように継続していくかということなんです。行政からも自立をなさいたいなことが前提にあるんですけれども、やはり自立をするのはなかなか難しいなという感じがします。やっぱり若い人はプロジェクト的に短期に関わって次の人に渡していくというか、ずっと関わっていく若者というのはいないと思うんですね。だから、そのつなぎをどのようにしていくかというのは、そのつなぎの部分で大人であり、行政であり、どこかが補完していかないとこういった活動というのは尻切れトンボになってしまうので、今後どのように継続させていくかというのが次年度以

降の課題かなと思っております。本当にありがとうございました。

○会長 続きまして、お願いいたします。

○委員 私もコロナ禍で孫が生まれたりして、未来に何かできないかなと思って、この会に参加させていただくことを決めたんですけれども、やってみたら、頭で思っていたこととは違って、多くの仲間ができ、それから若者の方のお友達もたくさん増えて、とにかく楽しく参加させていただきました。この間の野球、WBCで栗山監督が、若者を信じることで力を引き出してああいう結果を出したというのを見て、しもきた倶楽部もかくありたいと思ったんですけれども、今まで我々世代というのは割と一方的にこうあるべきという教育を受けてきたんですが、これからは、そういう世代の違いとか、違いをクローズアップさせることではなくて、共存というか、共に力を合わせていいものをつくっていくことのほうに視点を置くべきなんだなというふうに、本当にこの経験を通して学ばせていただいたので、とても有意義な2年間だったと思います。

私たちも5月までと聞いていますので、先のことを思うと、継続はまだ不安定なので心配な部分もありまして、私も地域の一人として今後も関わっていける部分があれば参加させていただきたいと思いますけれども、またみんなで考えて、よりいい形で継続ができることを望んでいます。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。ただいま小委員会に加わっていただいている委員の方々に御意見をいただいておりますので、続きまして、お願いいたします。

○委員 多世代交流という言葉は大変響きのよい言葉で、こちらに御参集されている皆さんはそういった機会があると思うんですけども、私はしががない一人の区民として、今まで多世代交流というものにあまり参加したことがない、多世代交流というのはい体どこで起こっているのと思うんですね。区外とかに通勤に行って全然違う仕事をしていると、若者に出会うこと、若者の声を聞くことというのは普通あまり起きていない。同じ地べたの中で過ごしているのに若者の声を聞く機会がないという現実に意識的になっていないということに若干恐怖を感じるぐらいでした。

この委員会に参加させていただいて、区がそれを取り持って多世代交流の機会をつくるのだ、若者の声をちゃんと聞いて響かせるのだということを設定してくださったことの意義を2年間、ずっとこちらをやらせていただく中で私自身も非常に腑に落ちたし、区に感謝するところも大きいですし、ここからがまた大事だなと思う部分でもあります。

この活動は私自身も本当に楽しくて、若者の視点は本当に柔軟で新鮮で、ニュートラル

でとてもいいんですね。私たち大人というか、若者じゃない世代にとっても共につくり上げる喜びがありました。年齢を分離するということなく、自然に混じり合いながら、1か月に2回ぐらい集まることもあったんです。イベントとしては4回ぐらいだったんですけども、この会議体にみんな足しげく通って普通に会議をして帰る、これ自体が、多世代交流というのは意識的にやればできるよということをこの1年で実証したことだと私は理解しています。

では、その次に何をするのかということなんですけども、ここで生まれた信頼関係の中で、若者の地位を高めたいとか、この活動で力をつけたいという意向を若い人からいただけたということがあって、より地域の課題をこの中で検討していきたい、そういう声は押しつけとかではなく上がってきたんです。私は、そもそもこの活動のテーマである「若者ととも変わる地域～若者の視点で」というのを時々忘れてしまっていたんですけども、一周回ってこのテーマに着地してきたなという実感が非常にありました。

思ったことは、66ページの提言のまとめの中に書いてくださったので、この2年の活動がこういった形で終結し、次にまた区が間に入っていただきながら活動が続けられることに非常に安堵しています。貴重な機会をありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。続きまして、お願いいたします。

○委員 私も商店街チームに参加して、この2年間やってまいりました。

仕事で現役を引退しまして、世田谷区に何か貢献できることはないのかなと思って、私は区長申立ての成年後見人で2人の方をやっております。一方で、やっぱり若い人たちのことも貢献したいなという思いでこの2年間やってきました。本当にいつも楽しく活動できたと思っています。

今、多世代交流の話が出ましたけれども、私とこちらにいる3人の女性は約半世紀年が違います。まさに多世代の交流の一つかなと思って、彼女たちも本当に私などの年齢では考えられないような発想を持って活動してくれていて、私自身非常に勉強になりました。そういう意味で感謝しております。楽しくというのは、こういう若い人たちとの会話も楽しかったし、この間ちょっと申し上げたのかもしれませんが、おにぎりを握ったりとか、活動自体も本当に楽しいものがいっぱいでした。私世代の年齢の人というのはエネルギーが余っている人はいますので、もっとこういう活動に参加できたらいいのかなという思いを一方で持っております。

それから、しもきた倶楽部の活動についてですけども、そもそもこの会が「若者とと

もに変わる地域～若者の視点で」ということで始まっているわけなんですけれども、私はこれに参加して、実は青少年のために何かするというこの意味合いで言うと、世田谷区は行政としても、官民協働という形でも、それから民間自体ということでも非常に多くのことに取り組んでいるなど勉強させていただきました。非常に多くの団体があって、物すごい数があるなどという認識で、それぞれ活動しているんですが、それを連携する、協力体制をつくる、あるいはマッチングする、それぞれの団体をもっとうまく活用できるのではないかなと最近感じています。そういうことをもっと組織的に区としてできたらいいのかなという思いがあります。

それから、若者ということ、若い男子の学生もいるんですけれども、いろいろ付き合ってみて、何かやってみたい若者がいるわけですね。何か行動してみたい、やってみたい若者がいる。私としては、世田谷区に住んでみて若者がこんなことができるんだ、世田谷区の大人は若者の意見をこんなに聞いてくれるんだ、若者と大人が一緒になってこんなことが実現できたんだというような経験を若者にぜひしていただけたらなと感じています。

それから、今までの方もお話が出ていたんですけれども、5月までということなんですけど、それで終わりということではなくて、若者が世田谷に住んでみてよかった、あるいは若者が世田谷に住みたいと思える取組だと思しますので、私としては、区としても区を取組としてぜひこの事業を続けていっていただけたらなと思います。どうもありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。以上が区民委員の方々でございました。

それでは、専門委員から御意見をいただきます。お願いいたします。

○委員 私は学校チームで今期も活動させていただいたんですけれども、今期は、学校チームもモデル事業ということで、実際に校内カフェを開催できたのが何よりよかったなと思っております。やはり商店街チームさんと同じように、継続の部分というのは、学校チームもこれから形をつくっていくところになっていくだろうなと思うんですが、今回の報告書の中でもありましたし、発言の中でもありましたけれども、生徒さんたちがいわゆる福祉サービスであったりとか、何らかの生きづらさのところにつながっていくところは、継続していく中で、安心感を持っていった中でデリケートな部分というのはぽっと出てくるだろうなと思っているので、やはりイベント的にやるのではなくて、継続していく中で、そういった福祉的な視点を持った大人が入りながら関わっていくことで、より校内カフェの機能が厚くなっていくかなと考えております。実際、他の自治体の学校カフェ

の取組ですと、やはりそういった福祉的な部分も視点に持ちながら活動されている団体さんも多くいらっしゃいますので、そういったところも参考にしながら、世田谷区の中でもこの取組が本当に広がっていったらなと考えているところです。

大東学園さんでは次年度も継続的というような学校のニーズともマッチしたところがあるかと思しますので、その継続していく中でさらに成果と課題をまた検証していくような取組が続いていくとよりいいのかと思っております。今期もどうもありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

○委員 私は学校チームでしたけれども、そのチームでどうのこうのということよりも、この青少年協議会での議論が青少年交流センターの活動と重なる部分が非常に多くて、施設の運営にも、いろんな議論が自分たちの活動を見直す上ですごく大事な道しるべになってくれたなというのを一番感謝しております。

あとは、これはある自治体の首長さんがおっしゃっていたことですがけれども、若者の3年と行政の職員の方の3年というのは大分違うよねと。例えば高校生だと3年間で卒業までしてしまうわけですから、そういう意味では、今ある課題みたいなものとはにかくスピード感を持って、今、大学生の人に届かないと意味がないというのは、改めてその辺をきちんと取り入れながら活動していきたいなと感じました。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

○委員 私もこの2年間活動に参加させていただいて、とても楽しく過ごせた2年間だったと思っています。特に先日の商店街チームで開催した「Hub culture」の2回目のイベントですがけれども、本当に一つ、モデル的なところのゴールといいますか、こういうことを今後も継続してやっていけばいいのかなというようなものが少し見えたのかなと思っていて、何か地域の困っていることを、若者の力、アイデアを取り入れたりしながら、先ほど多世代交流というキーワードがありましたけれども、そこにいろんな大人だったり、たまたま今回参加してくれた方も下北の地域の方だったので、その地域の方にも入っていただきながら、こうでないかああでないかとか、いろんな解決策を考えるというところで、いろんな交流ができたり、今回はまだできていないんですけれども、実際にそれを具体化させていく、こうしていけば困っていることに何か解決に導けるんじゃないかというよう

なところまでいけたら、今回やってきた取組が一つの到達点になるかと思っていて、そこは今後また活動が広がっていく一つのモデルケースになるのかと思っていました。

先ほどから任期のお話もありましたけども、ここで出会った方々が今後も任期関係なくといいますか、自分が興味があったり、参加していきたいということであれば、いつでも出入りができたり、沼にならないように、出入りは自由な形で、自分たちが興味があったり、やりたいと思えば集える場だったり、必要であればまたそこにいつでも気軽にというところで、その活動が継続できればなと思いますので、また区のお力も借りながら今後も継続できたらと思っていますので、本当に貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

○委員 僕もイベントに出てみてすごく楽しかったんですけども、やっぱりその楽しさというのが結構キーワードかなと思っていて、こういうコミュニティーとかというのは仕事じゃないなと考えていて、人と人を取り持つものは結構楽しさだったりするかなというところがあります。なので、コミュニティーは関係性だなと考えているので、そういった楽しさというのを中心に据えていろいろ進めていくというのはすごく素敵だなと思っています。

ただ、そういうことは胸を張って言えなかったりとか、業務的になってしまったり、形式的になってしまったりする場面もあるかもしれないんですけども、このモデル事業のところに関しては、そういう楽しさの雰囲気づくりみたいなところを中心に考えていくのもよいかと思っています。しもきた倶楽部もまさにそれが中心にあって、だから、持続させないといけないからやるというものではなくて、楽しいから勝手に続いていく、そういう在り方の芽みたいなのが出てきたかなと思っています。なので、これからもそういう雰囲気づくりみたいなところにいろいろな形で貢献できればと思っています。事務の皆さんとかも、いろいろありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

○委員 学校チームで関わらせていただきました。ありがとうございました。

若者と咲かせるネットワーク・せたがやで委員として参加させていただくということで2年間やってまいりました。そういう意味では、いろんな交流が委員の方とできたかな

と。若者と咲かせるネットワークの交流会とか、それから三宿中夜間学級の見学ツアーとか、そういう場に一緒に参加してくださる方が委員の中からも何人もいらっしゃって、それが一つ、私がいることで交流が進んだということではよかったかなと思っています。

もともと私は30年以上、随分長い間、NPO法人こども劇場せたがやの理事長もして、ここのところ理事は退いているんですけども、30年以上、子どもを真ん中に文化を通してまちづくりをするという活動を地域でやってきていたものですから、自分が活かせるとか、世田谷区に何かできることはないかな、何ができるんだろうみたいなことがあって、そういう意味もあってこちらに参加したんです。そういうところでは、何ができたかは分からないんですけども、自分の中に、ここの場の委員の方たちの御意見とか、やっている活動とかがすごく入ってきて、自分がすごく膨らむ、豊かになるというふうにすごくできたかなと思って、本当にありがとうございました。

あと、学校チームは、私は最初に、学校を信じていないというか、ほっとする場所なんか学校にできるわけじゃないんじゃないんていうことをちょっと言ったかもしれないんですけども、それなのに関わる私ってなあに？ と思いながら関わってみたんですけども、それはとてもよかったです。ごめんなさい学校と思っています。特に大東文化学園にお邪魔したときに、校長先生、副校長先生が、五、六年前から、生徒さんたち、子どもたちには、学校ではない、教育の場ではない居場所、ほっとする場が学校の中にもあることが必要なのではないかとすごく研究してきたとおっしゃっていたんです。本当にびっくりしました。それが必要なんだなというのを感じている学校の方たち、職員の方たちがいらっしゃったんだな、ごめんなさいと思ったというのがすごく大きかったです。

実際、学校カフェをしてみて、確かにそうだなと思いました。そういうほっとする場は、昔だったらありましたよ。私の高校生ときはちょっとしたものがありませんでしたけれども、今はそれはなかなか難しいんだなと。大東学園でさえ難しいというか、そういう先生方の御理解がある学校でも難しいのかもしれないというのでは、やっぱり意味があるし、私は地域的に大東学園が近いので、すごく責任を感じながら、今度、委員になれるかどうか分からないし、なるかどうかこれから考えるんですけども、地域の人となっても、何かしらどう地域で関わっていくかというのを考えていきたいと思っています。2年間本当にありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。それでは、お願いいたします。

○委員 私は2年間活動してきて、正直、最初に思っていたよりも会議がすごくたくさん

あって、小委員会とか、商店街チームの話合いとかたくさんあって、いろんな人と関われる機会があったと思っています。会議では、意見を求められたら大人の方たちもちゃんと聞いてくださるし、商店街チームでは、実際にチームに携わってイベントを実施できたという経験ができたり、2年間すごく充実していたなど、自分がすごく成長できたなと思っています。

大学に入って、コロナもちょうどあって、人とのつながりとか、だんだん離れていくというか、孤立していくのかなと思っていたんですけども、ここに参加して、すごくたくさんさんの経験をさせていただいて、学ばせていただくことがたくさんあったと思いました。2年間ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、お願いします。

○委員 私も2年間本当にあっという間だったなと思っています。私は、最初は学外活動に、大学よりもずっと前から力を入れていたんですけども、最初は地域の小さなコミュニティーカフェから活動を始めて、「ねつせた！」と御縁があって、そこから本当にいろいろやってきて、今では世田谷区のモデル事業に携われるまで自分自身で成長できたと思っています。本当に貴重な機会をいただけたなど、選出していただいたときからずっと思っていました。

私は、商店街のほうに結構深く関わらせてもらっていたんですけども、やっぱりこういうところに来てくれる大学生だったり、新社会人の方も、同じようにいろんな学外活動だったり、いろんな人との交流がほかの場所でもあるのかなと思っています。そういう方たちは関わる団体を選ぶ側にいるのかなとも思います。なので、団体として自分がどういう経験を得られるのか、自分がそこでどういう成長ができるのかということをこっちから提供していく必要もあるのかと思ったりしました。私が参加していても、いつも会議では大人の委員の方々が若者の意見をすごく親身になって寄り添って聞いてくれている感じがしたので、それは参加している人たちもいつも感じていたのではないかと思っています。

私たちがもともとやっている本来の目的は何だっけと忘れてしまったり、提言を思い出せなかったりした機会もあったので、今後やっていく若者だったり、委員の人には、何のためにやっているのか、提言は何だったのかというところを常に振り返る機会がたくさんあるといいかと思いました。なので、大人の方々には、若者がちょっと間違った方向に舵を切ってしまいそうになったときとかに、そういう提言だったり、目的を思い出させてく

れるような役割で、お互い一緒に成長していけるようにできたらいいかと思いました。本当に2年間ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、お願いいたします。

○委員 私は商店街チームのイベントに去年の3月くらいから継続的に関わらせてもらったのと、青少年協議会には夏頃から参加する形になったんですけれども、1年弱ありがとうございました。

もともと私は、高校生のおきから若者が本音で語り合える場をつくりたいというような活動を細々となんですけれどもやってきて、去年から世田谷区の若者とともに変わる地域というテーマでの協議会とかに参加させていただいて、そういう取組自体をしていることを知って結構衝撃だったというか、こんなことを世田谷区がやっているんだというので、まずはすごくうれしいなと思ったんです。学校チームでも学校カフェとかをやっていたと思うんですけれども、私自身も学校に居場所がないなと感じたり、あまり楽しくないなと感じていたことがあったので、その取組とかは今の中高生で絶対に必要としている人がいると思うので、こういう活動を区がやっているというのでまずうれしいなと。この商店街チームでいつも会議とかに参加させてもらっているんですけれども、自分がやりたいと言ったことをやらせてもらえたり、いいねと言ってもらえたりとか、自分の存在を肯定してもらえるところがすごくうれしかったです。

今までしもきた倶楽部とか商店街チーム、この協議会とかでいろいろ話してきた中で、今の若者の中にも、自分がやりたいこととか思うことがある人、社会に対しての強い思いとか、自分の中ではっきり強い思いがある人は、多分、自分自身でどんどん進んでいけるというか、自分からどんどん行動しているところに行ける人なのかと思うんですけれども、今、しもきた倶楽部で活動してきて、何となく世の中についてぼんやり思っていることがある人とか、社会についてとか、しっかり考える機会自体が今あまりないと思うんですけれども、ニュースを聞いて何となく考えることがあるとかは、結構いろんな若者がある経験だと思うので、そこの思いにグラデーションはあると思うんですけれども、ぼんやり社会に対して考えたりしているような人がしもきた倶楽部の中で一步を踏み出せる、地域と一緒に関わっているいろいろやっていく中で、チャレンジの場とか、そういう一步を踏み出せるきっかけの場になればすごくいいなと思いました。

今、地域につながりを持っている若者、学校と家とか塾、そういうつながりはあるけれ

ども、やっぱり地域と関わりを持っている人は本当に少ないと思うので、地域に自分を肯定してくれる場所とか、居場所を持っておくことは心身の健康にもつながると思うし、すごくいいなと思います。地域の中で自分の思いとか、自分の声を言える場所があって、それが地域の中で反映されて、地域が若者とともにどんどん変わっていくというふうになっていけば、若者自体も地域への愛着とかも湧いてくると思うし、それでまたより活動的になっていくようなポジティブなサイクルが生まれるのではないかと思います。私自身、地域とか、今のしもきた倶楽部の活動に関わっていけたらいいなと思っているので、これからも地域と一緒に活動していけたらいいなと思っています。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。大学生の3人の委員の方々の話を聞いていると、やっぱりいいなと感じました。

続きまして、協議会の委員の方々に御意見、感想をいただきたいと思います。まず、行政から、お願いいたします。

○委員 皆さん、こんにちは。私は法務省の東京保護観察所の世田谷地区の担当官をやっております。

この報告をつぶさに拝見をさせていただきました。すばらしいと言ったら少し失礼な言い方になるのかもしれませんが、本当にすばらしい活動をされていて、私はどちらかといえば、保護観察の少年、あるいは大人が対象ですから、うちの業務から考えると少し距離的なものを感じるんですけども、ただし、今日、少し数字を取ってきたんですが、この10年で保護観察になっている人が半分になっているんです。

これは何かの機会にまたお話しさせていただこうと思うんですけども、実はこの少なくなってきたことによって、当然、職員をいろんなところに、保護観察退所者、保護観察少年に対して手厚く処遇をしていこうということで、この10年、どういうふうに手厚くすればいいのか、とにかく保護観察を生まない、非行少年を生まないためにはどうしたらいいかということで活動してきまして、ここでようやく少しつながるんですけども、居場所ということが我々法務省の中でも語られるようになりました。私が観察官になった30年前は、法務省で居場所なんていうことを言う人は誰もいなかったです。居場所は必要だと、これは当然のことだと思います。

私どもは、まず何に手をつけたらいいかいろいろ考えまして、少なくとも今継続して力を入れてやっているのは、お聞きになったことがあるかと思いますが、法務省の実施している社会貢献活動ということで、保護観察処遇の中に、社会貢献、つまり、老人施設での

処遇、介護、お手伝い、ボランティアです。変わったところでは、渋谷のハロウィンの翌日、ごみがたくさん散らかっているところのごみ拾いなど、とにかくいろいろ項目を設けてやっている。

居場所、居場所というふうに話してきたわけですがけれども、やっぱり居場所をつかむにはきっかけが必要だと思うんです。はっきり言えば、我々は保護観察処遇ですから強制なんです。これが大きな違いだと思うんですけれども、やっぱりきっかけが必要だというふうに考えれば、保護観察になっている少年に対して一つ有益になればいいなと思ったりして、近年はプログラム処遇とともに手厚くなっているということでございます。

長くなりまして、ごめんなさい。どうもありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

○委員 皆さん、こんにちは。世田谷少年センター所長をしております。

私は、行政庁の職員ということでこの協議会に参加させていただきまして2年なんですけれども、通常ですと、行政庁の職員の宿命で人事異動などがありまして、任期の途中で離任したり、逆に任期の途中で入ってきて、議論の推移も分からないまま席だけぼつんと座っているということがあるんですけれども、今回、最初から最後まで提言がまとめられるところまで参加をさせていただきまして本当にありがたかったなと思っています。

私は、この協議会に参加させていただく中で、トー横の話とか、メンズ地下アイドル、推し活にはまってしまう少年の話をさせていただきまして、ちょうどトー横の問題がクローズアップされたのが2年前の5月あたりなんです。その前から子どもたちは集まり始めていたんですが、あそこでオーバードーズによって飛び降りる子どもの事案などが続発したという関係で、にわかに注目を集めて、私たち警視庁の少年育成課としてもトー横での活動を強化するようになったと。

あそこで活動するようになって、何が問題なのかなといったときに、私が思ったのが、場の問題なんです。居場所の問題で、居場所がないからここに来てしまうというのを実感していた矢先に、この協議会のテーマの中に若者の居場所をつくると言われて、まさにこれだということで、私も区行政機関のほかの協議会、要対協とか、いじめの問題の会議にも出させていただいているんですが、やはり私にとってはこの協議会が一番希望だったかなという気がして、今回まとめられた提言の次のステップに着実に進むことによって、若者、子どもたちの居場所をぜひつくっていただいて、トー横などの居場所のない子どもた

ちがああいった場所に集まってしまっって被害に遭ったりするような問題の解決にもつながっていけばなと思います。

実際のところ、先週末も私は少年育成課を挙げて補導活動に従事してまいりましたが、大体100人ぐらいの規模で25日の深夜にト一横に入りました。ニュースの報道などでも御覧になったかと思うんですが、30名近い子どもたちをものの30分の間です。最初に11時過ぎに行っってあっという間に30人ぐらい補導をして、その子たちの処理で一晩中明かしたというような状況で、まだ全然改善の状況が見えないということです。

あと、メンズ地下アイドルに関しても、去年の暮れの協議会のところで初めてお話をさせていただいたんですけれども、これも1月末、ニュースで御覧になった方もいるかと思うんですけれども、メンズ地下アイドルが女子高生2人にいかがわしい行為をしたということで、私ども少年育成課で逮捕しているんですけれども、これも高校生2名がそれぞれ300万円と50万円を貢いでしまっっていたということで、やはり居場所のない子どもたちの問題というのは根が深くて、まだまだ続いっっている状況ですので、先ほど申しましたが、ぜひ次のステップに確実に進むことを期待しているところであります。

最後になるんですけれども、これも若者が巻き込まれる問題で、皆様の卓上に、本当はカラーなんですけれども、白黒刷りで、ちょっと見にくくて申し訳ないなんですけれども、御覧になりながら御説明をさせていただきたいと思うんです。

先日のフィリピンを拠点に特殊詐欺とか強盗などを繰り返していたグループのことで話題にもなっている闇バイトです。若者を中心に闇バイトに応募したことによって、ああいった犯罪の加害者になる、被害者ではなくて加害者になってしまうという問題が今問題となっております。昨年、令和4年中に警視庁で特殊詐欺の被疑者、特殊詐欺に限っているんですけれども、検挙した被疑者が791名、約800人近くいるんですけれども、その内訳を見ますと、10代が19%、20代が44%、30代が19%で、この協議会のテーマであります若者ということに関すれば85%になるんです。約800人の検挙した特殊詐欺の被疑者のうちの85%が若者の世代だということになります。

あと、学職別で見ますと、無職が59%、有職が31%で、学生が8.5%ですから、割合からいっると68人ぐらいが学生なんです。68人の学生のうちの高校生が56%で一番多くて、大学生が21%、中学生も1.7%なので、7人ぐらい中学生も入っっているということです。

犯行の動機、受け子とか出し子になってしまう動機は、やっぱりお金に困っっているとか、お金もうけができるということで、安易にこっいったツイッターとかを利用して闇バ

イトにアクセスして、そういった闇バイトから受け子とか出し子に関わってしまったというのが46.8%で、半分ぐらいが闇バイトの募集に応じてしまっているということで、これも非常に大きな問題です。やはりこれも大きい意味で言うと、居場所がなかったり、やることがなかったり、また役割がないということに行き着くかと思imasので、この協議会でお話しされていたことというのは本当に大事なんだなと実感しているところでありま

す。

私は2年間、この協議会に関わらせていただいて、個別のモデル事業とかで何かお手伝いできたわけではないんですけども、被害に巻き込まれる事案とか加害者になってしまいう事案をお伝えする中でこの協議会の必要性を一層御認識いただけたかなという部分で少しお手伝いできたのかなと思っております。本当に2年間ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、区議の委員の方々から御感想をいただきたいと思imas。

○委員 皆さん、大変お疲れさまでした。この2つのモデル事業、その有益性というものが検証されて、今後にぜひつなげていってほしいなと思imas。来期以降、その仕組みづくりに向けて今後も検討していくということなんですけれども、これが学校1か所、商店街1か所だけで行われているのはすごくもったいないと思imas、校内カフェでいけば、区でやるんだったら中学校になるのか分からないんですけども、あと校長先生がどれだけ御協力いただけるかというところもあるかも分からないんですけども、すぐにでも横展開していただいて、さらに広い検証ができるんだろうなと思imasし、学校内での居場所、学校が直接関与しないような、それも学校は嫌がるのか分からないですけども、ぜひそういう居場所を確保していただきたいと思imas。

商店街も、私は今、祖師谷みなみ商店街というところで事業を営んでいるんですけども、この春から商店街で空き店舗を1か所借り上げて、そこを商店街のPRに使ったりとか、コミュニティーのスペースに使ったりというところで、その運用に関して、近くに日大商学部さんがあるものですから、そこの一つのゼミさんに御協力いただいて、そこのゼミの研究の実践の場でもいいですし、あるいは新規創業みたいなことのトライアルでもいいですし、必ず地域の人たちが集まるような場所にしてねということだけは言わせていただいて、中身は任せますということで今やろうとしているんです。多分、そういうことをやりたい商店街はあると思imasし、例えば子ども・若者部の予算で商店街に家賃支援でもいいですし、運営費の支援でもいいですし、そういった助成を行うこともできるかと思

うので、そういったこともぜひ取り組んでいただきたいと思います。

いずれしても、このモデル事業の有用性というのは証明されていますから、一刻も早く横展開して、区内で幅広くやっていく、あとは区の本気度みたいなものを、ここで議論したことを実際にやるのかやらないのかみたいなどころまで来ていると思いますので、しっかりと進めていただきたいと思います。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いします。

○委員 2年間、お疲れさまでした。ありがとうございます。

これを実現するのは私たちだと思っています。なので、学校カフェにしても、商店街の仕組みにしても、これが世田谷の特徴だと言えるような事業に発展させることが使命だと思っています。2年間この協議会に関わらせていただいて、たくさんのことを教えていただきました。そして、また、今3人の大学生の方が言われたことが本当に心に残りました。こういう大学生が世田谷にいれば、世田谷の将来は明るいというふうに感じました。本当にありがとうございます。

先ほど言われた地域に関わる若者、そして、その思いや声と言える場が地域にあること。そして、地域は若者で変わるんだというその実現を何とかしたいというふうに私は思います。私は、小さいところの町会ですけれども、町会長をやっています。町会の悩みというのは、高齢者の認知症とか、独居といったことが大きな課題でありますけれども、やはり若者が活躍できる地域、そういう町会をつくらなければいけないということを本当にこの2年間で感じさせていただきました。若者が世田谷に住んでよかったと、先ほどお話がありましたが、活躍できる場がありますと、そういう世田谷をつくりたいとも思いました。

私たち区議というのはこういうことを実現するためにいるんだと思っていますので、これから行政とともにしっかり協力し合ってやっていきたいと感じました。本当に2年間ありがとうございます。お世話になりました。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いします。

○委員 2年間ありがとうございます。

私がたしかこの会議の最初の頃に、若者といえば、例えば気候危機対策とかそういうところで声を上げている子もいるよなみたいなことを発言したのをさっき思い出したんです

けれども、さっき何かの発言で、確かに私たち政治家というのは、そういう課題を持っている若者とは結構接点があるんですね。やっぱり積極的にこちらにやってきてくださって、世田谷区の気候危機対策はどうなっていますかとメールをくださったりとか聞いてくださったり、街頭をやっている、街頭に立っていると声をかけてくださったりする。でも、ふと今の先ほどの委員のお話で、とはいえ、自己有用感みたいなものを求めているんだけれども何をしたらいいんだろうとかという人たちのほうが実はマジョリティーなんじゃないかなと、そういう方々の中には物すごいポテンシャルがあって、それを引き出す場というのがこの場なのではないかと思いました。

商店街のしもきた倶楽部というのは名前もすごくキャッチーでいいし、あと校内カフェというのは、私は前も申し上げましたが、本当に必要だなと思っていたこともあったので、何かうまく次につながるようにするためには、お金と場ですね。これが行政がやるべきところかなと思います。例えば、ここのメンバーが皆さん卒業する、継続する方がいたとしても、人と、また方針がいろいろ変わったとしても、今ある2つのしもきた倶楽部と校内カフェに関しては、何かしら形が残っていくような気がします。

校内カフェにおいては、私は実は公立でやってほしい。今回、私立高校もありましたけれども、先ほど不登校のお話を委員もおっしゃっていましたが、これが不登校対策になるという直接的な話ではないんですけれども、学校の中にちょっと居場所があることですごく大きな効果があるというのは、御相談いただく中で体感的にあるんです。例えば、今も教育委員会はいわゆる別室登校というものに予算をつけています。だから、ひきこもってしまう不登校ではなくてちょっとでも行ける、給食を食べるだけでもいい、もしくは部活だけでもいい、もしくは校内カフェだけでもいいみたいなことが結果論できたらいいなというのと、あとは普通に通っている子どもたちも、いわゆる交流するための場として、そういう居場所をアップスさんがやってくれたらうれしいなとか思ったりしました。本当に2年間ありがとうございました。楽しかったです。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

○委員 皆様、大変お疲れさまでした。私はこの2年より前から携わらせていただいているんですけれども、ようやくここに来て、具体的な案として報告書ができたなというふうに実感しています。行政はよく報告書ができるとそれで満足みたいところがある、報告

書が配られるんですけども、興味がある議員は見て、興味がない人はそのままどこかにしまっておしまいみたいなことが結構あるかなと思っているんですが、これはぜひとも活かさなくてはいけないと思います。私たちは交渉会派からそれぞれ出ていますので、超党派でちゃんと出席し、話を聞き、これは有意義だと全員がみんな同じ気持ちになっているので、この先、ぜひとも形になるようにしていきたいと私も思います。

とにかくこの委員会は、小委員会の皆様のおかげだなと。小委員会の方が何度も何度も具体的なことを話し合ってください、時間も割いてくださって、私たちは報告を聞いて、あっ、そうなんだ、すごいなという感じで協議会を進められてきたかと思っていますので、小委員会の皆様方、本当にありがとうございました。ここまで形になったのは、どれだけ時間を費やしていただいたか、アイデアも出していただいたかと思います。でも、そういうことがあって皆様同士がすごく仲よくなって、1つのグループみたいに、OB会ではありませんけれども、そういう輪も広がっていると聞いて、それもすごくうれしく感じました。ぜひいい形で具体的に進められたらと思っています。本当にありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。各委員の方々から御意見をいただきました。

それでは、もう1度、副委員長からまず感想をいただきたいと思います。

○委員 この2年間、どうもお疲れさまでした。報告書の71ページに今年度期の審議会の小委員会と本委員会のもので書かれているんですけども、実はこれ以外に、小委員会の中のそれぞれのチームが、毎週とまではいかないけれども、イベントごとに打合せを重ねていて、ここには出てきていない積み重ねがあつての今回の提言ということになっております。私はその全てに参加できていないのが申し訳ないですけども、それぞれの会に参加されていた委員の皆様には、改めてありがとうございましたとお伝えしておきたいなと思っております。

その上で、今回ずっと話の中で、多世代なのか、あるいは若者の思いをどう社会の中でつなげていくのかというところの中での議論をすごく丁寧にされてきています。私は、前回の小委員会のときにもちょっとお話をしているんですけども、2月に明石市で行われました「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムに毎年主催者側として参加をしていて、そこで出ていた子ども参加の分科会の中で、尼崎市のユースワークの方が言われていたことがすごく印象に残っております。

そこで言われていたのは、今の若者や子どもにとってターゲット型アプローチは非常に

ハードルが高いと、何か困ってから相談してねというのは非常にハードルが高い、むしろユニバーサルなユースワークが早期発見やセーフティネットにつながるというところで、やはり日常の中でいかに子どもや若者が、何かあったときじゃなくても、普段からのコミュニケーションを取れる関係の中で、いろんな大人や地域の人と、あるいは同じ世代でもいいんですけれども、やはり家庭や学校だけではないところでいろんな人とつながっておくことが大事で、そのときに、あっ、この人だったら何か相談できるなとか、この人だったら愚痴をこぼしてもいいかなとか、何かあったらここに駆け込めるんだなということが、やっぱり知り合える関係をどうつくっておくのかというのが非常に大事だと言われていました。世田谷の中では、きっとそれがアップスであったり、のげ青とか池之上で、または児童館とかを含めて、いろんな場所であるんだと思いますけれども、やはりそういった場面をこれからも世田谷の中でどう丁寧に積み重ねていくのか。きっとその中の一つとしては、商店街チームの中でやっていってもらって、まちづくりとかに関心がある、一つはそういうテーマ性を持ちながらも、どう一歩を踏み出そうか分からない若者が関わられるような機会をつくることも大事ですし、校内居場所カフェにおいてはまさに学校の中で、先生も関わっていない場所の中で、ふだん行っているところで、居心地のいい場所、ほっとできる場所をつくれるかどうかというのが非常に大事だなと思っております。

東京都が2024年度から校内居場所カフェ事業をスタートするということが報道であって、都立高校のチャレンジスクール1校からスタートなんですけれども、今回、区内の世田谷泉は対象になっていないんですが、そういったところを東京都教育委員会としても進めようとしている中で、この中のメンバーとしては教育委員会の方はいらっしゃらないのであれなんですけれども、先ほどもありましたように、公立の中学校の中でも居場所カフェというものが進められるようにしていただきたいと思いますと思っております。

そういう意味では、先ほど委員が実現するのは私たちと何度かおっしゃられていましたけれども、私たちはある意味提言をすところまでで、あとはそれが実際にどうなったのかという効果、検証はまた来年度期以降、この委員としてはやらなければいけないんですけれども、こういう提言があったけれどもどうなっているのかということをお区議の皆さんが議会の中で伝えていくことというのはやはり非常に大事ななと思っております。そういう意味では、改選期でありますので、皆様方はまだまだいろいろと大変な部分があると思いますし、また、次期の委員になるかどうか、またメンバー構成によって変わるとは思います。こういう思いがある仲間なんだというところの中でぜひ次の一歩を踏み出していた

だきながら、また次にメンバーになろうと、ならないであろうとも、こういうものがあつたよねというところの中で、区議の同じ会派及び区議会の中でぜひ共有していただいて、これを実現に向けて行っていただきたいと思っております。

ちょうどこども基本法がもう週末、そして、こども家庭庁も4月1日からスタートする中で、子どものことについて決めるときは全て当事者である子どもに聞かなければいけないという法律ができておりますので、まさにそこに向けて、世田谷区は先んじてスタートしている部分がありますけれども、よりそこを牽引していく立場として、これからも進んで行っていただきたいと思っております。2年間どうもありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、委員長、お願いいたします。

○副会長 一人一人の委員の皆様からの御感想をいただきまして、今、副委員長からも感想をいただきましたので、私も一言感想を述べさせていただきたいと思えます。

月曜日、おととい、ようやく繰上げ合格の方々に電話を全てかけ終わりました、先ほどは1時からオンラインで、もう既に今週末から新年度の会議をして、本当に忙しいんですけども、何とかこの土曜日、日曜日で最後2日間、かぐらに行ってきました、今年も14日間滑ることができました。本当に雪がないです。かぐらだと5月まで余裕で滑れるはずなんですけれども、今年はゴールデンウィークまで滑れるかどうかという状況です。岩原の宿の方とお話ししたら2週間早いというお話でした。桜はすっかり入学式の花から卒業式の花になってしまいましたね。本当に地球が悲鳴を上げています。

日本の政治はいかがですか。日本の政治を見ても心配なことばかりですね。その結果として経済がこういう状況で、賃金は少しずつ上がっているような話ですけども、果たして物価高に追いついているのかどうかという状況で、私は社会福祉学科にいますので、生活困窮の問題であるとか様々なところ、まさに最前線で仕事をされている方々と一緒に会議をすることも多いんですけども、本当に大変な状況です。今回は若者とともに変わる地域という話でしたけども、どういう世の中を次の世代に残していけるんだろうかと考えたときに、本当につらいですね。この世の中をつくってしまったのは私たちの責任ですから。政治の責任なんでしょうけれども、政治家を選んだのは私たちですから、その私たちの責任は多いですね。胸を張って今の子どもたちにこの世の中を渡せるかどうかといったら渡せないですよ。本当に恥ずかしいです。

上の子どもたち2人は、世界を股にかけて、育ってほしいと思っていたら、世界に股を

かけたまま帰ってこなくなっちゃいました。日本にいるよりも世界にいるほうが面白いですからね、稼げますし、それでもやっぱり私はこの国が好きです。何でこの国が好きかというと、ここにいる皆さんのような方と出会えるからなんだろうと思うんです。地球も悲鳴を上げているし、日本の政治も、経済もどうしようかという状況ですけれども、そこにこういう方々と一緒に協働できる場があるというのは本当にありがたいことだなと思って、2年間過ごさせていただきました。

明日の夜は、私も地域のおやじクラブの引継ぎがまたありまして、これまで6年生の方々の親御さんたちが非常に頑張ってくれていたんですけれども、そこから会計を預かるようなことになっていきますけれども、またそこでも世田谷の様々な話をしたいなと思っていますが、やっぱり探せば、そういう思いのある方々というのはあちこちにいらっしゃるかなんだろうと思うんです。ですから、そういう方々との時間を大切にしながら、そういう時間を過ごせる仲間がいることを次の世の中を担う子どもたちには伝え続けたいと思っておりました。今日は本当にありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、最後に私からです。令和3年－4年度期の子ども・青少年協議会は、本日、報告書を保坂区長に提出し、一通りの役目を果たすことができました。先ほど委員が報告書ができれば満足、区の行政のやる気次第だということをおっしゃってくださいました。私たち協議会のメンバーは、区がやってくれということのアリバイづくりのためにやったのではないということは強調しておきたいと思います。検討してきた提言、先ほど副委員長が言われました提言をぜひ実現していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

この取りまとめに当たっては、小委員会の委員長、副委員長並びに各委員の皆様が御多忙の中、先ほどこのスケジュールにない会合もしたということをおっしゃっていただきましたけれども、これは献身的に取り組んでくれたおかげと深く感謝申し上げます。

私は今期、2年前に最初の会合で、前会長のようなバイタリティーでこの会議体をリードできればよいと思っていますが、小委員会の委員として前回まで参加していた今回の委員の人は御承知のことと思いますが、前会長のバイタリティーは期待しないでくださいと申しました。そのとおりになっていました。でも、こうして報告書が提出できたことに、今、私は安堵感を持っております。

さて、先ほど委員から若者の実態についてお話がありましたけれども、先日、2022年度

の小中高生の自殺が暫定値で512人、その後、514人と発表されましたが、厚生労働省の担当官は、自殺原因について、学校の悩みなどが多い、ただ、近年の増加要因については確たる分析結果を持ち合わせていないということ述べておりました。自殺者の中で、高校生が352人、中学生が143人、小学生が17人で前年より6人増えているというような報告でありました。この担当者が近年の増加傾向について確たる分析結果を持ち合わせていないということについて非常に気になると私は思っております。子どもたちが自らの命を絶つということの悲しみを大人たちは持たなければいけないと感じております。多くの子どもたちは、学校の悩み、家庭の悩み、友人同士での悩み、人間関係の悩みを打ち明ける場所がない。そして、悩んでいる子どもたちの中に大人が存在していないということも一つの問題ではないかというふうに私は認識しております。つまり、報告書にも書きましたが、頼れる大人がいない、子どもたちが安心できる場所がないということです。

このような課題について本協議会は、子ども、若者たちがつながる場所、居心地のよい場所、安心できる場所、大人を頼れる場所を構築するにはという視点を模索しながら、いろいろな取組をしてくれました。そして、本協議会の小委員会の学校チーム、商店街チームの取組が悩める子どもたちに寄り添うことが可能になるのではないかと期待が私にはあります。この期待は、本協議会、さらに、現在ある種々の課題に果敢に取り組み、世田谷区在住の区民はもとより、世田谷区に遊びに来る若者、世田谷区の学校に通学してくる子ども、若者たちが、居心地のよい場所だ、話を聞いてくれる人がいると感じて日常を過ごすことができるようになることです。その取組には、今まで進めてきたように行政と区民が協働しながら方策を考えていくことが必要です。ぜひ本協議会でさらなる活発な意見交換をしていただきたいと思います。

最後になりましたが、皆様の御協力を得て実りある会議体にしたことを深く感謝申し上げます。私は本協議会に参加して10年たちます。あっという間でした。群馬大学から国士館に来てそんなにたつのかと、非常に速い時間の流れに戸惑いを感じておりますけれども、この年度をもって退きますが、この会の存在の大きさをつくづく感じています。繰り返しますが、どうか今後とも皆様の活発な御健闘を祈念し、最後の言葉といたします。皆様の御協力に厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。（拍手）

それでは、議事は以上で終了となります。進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いたします。

○嶋津子ども・若者支援課長 会長、ありがとうございました。委員の皆様たくさん御意

見をいただきまして誠にありがとうございました。事務局といたしましては、今期の子ども・青少年協議会で御議論いただき、提言として御報告いただきました内容を踏まえまして、こちらでもより一層、若者支援に取り組んでまいりたいと考えております。令和3年－4年度期につきましては、先ほどからお話に出ておりますけれども、本日が最終回ということになります。委員の皆様、本当に2年間、御理解、御協力いただきまして誠にありがとうございました。

次期でございますが、令和5年－6年度期子ども・青少年協議会につきましては、また、令和5年6月1日から2年間の任期としまして新たにスタートさせていく予定でございます。今期の議論、経験を生かしながら、今回、新たな課題など様々ないただきました。区としましても、こういった内容を真摯に受け止めさせていただき、考えていきたいと思っております。

それでは、閉会に当たりまして、子ども・若者部長より、一言、お礼の御挨拶を申し上げます。

○柳澤子ども・若者部長 子ども・青少年協議会の皆様におかれましては、2年間にわたりまして、若者施策について熱心に御議論いただきまして本当にありがとうございます。感謝を申し上げます。

モデル事業でも、地域の中での若者の居場所をいかにつくっていくか、若者に声を発してもらおう、そして、それをいかにキャッチしていくか、大人と若者の関わり方など様々な視点から検証いただいたことが、完成した報告書、それから今日の皆様の感想を聞きまして伝わってまいりました。

令和7年度から新たに子ども計画（第3期）の計画期間に移行してまいります。計画策定に当たって、来年度、令和5年度には、小中学生や高校生、ひとり親家庭への調査のほか、若者を対象とした調査なども行ってまいります。いよいよ計画策定の作業に入っております。子ども・青少年協議会でいただいた議論の内容は区としてしっかり受け止めさせていただきました。今後、これに基づきまして取り組んでまいりたいと考えてございます。

来期、継続して委員になられる方もいらっしゃるかと思いますが、今回の令和3年－4年度期は本日が最後でございます。委員の皆様には、コロナ禍ということで様々な制限の中での取組に御苦労があったと思います。この間の御協力に感謝を申し上げます。特に会長にあつては、5期10年と長きにわたり取組をいただきました。本日が最後ということ

でございます。事務局を代表いたしまして、長きにわたる会長の御功績に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりますが、改めてこれまでの委員の皆様の御協力に感謝申し上げ、御礼を申し上げますとともに、今後の皆様の御活躍、また御健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

○嶋津子ども・若者支援課長 それでは、こちらをもちまして、令和3年－4年度期第6回子ども・青少年協議会を閉会といたします。本日は、皆さん、どうもありがとうございました。

午後4時16分閉会